

卒業生による講演会

中一対象

平成三十年
十一月九日(金)

(株)テルミーソリューションズ

代表取締役社長

山本光平氏 (七期生)

山本氏は、本校七期生で、「セレンディピティ」というテーマで講演して頂きました。内容は、経験として、仮説→検証→戦略・情報の共有化を大切に、会社の売上を大幅に増加させたこと、金蘭千里で学ぶどの科目も必要なこと、新事業で毛髪分析から健康診断が出来るようになる取り組みなど説明して頂きました。最後に中一生からチームの大切さ、これからの夢などについて沢山質問があり、山本氏もよく話を聞いてくれていたと感心されていました。生徒にとって大変有意義な時間となりました。(井藤)



中三対象

平成三十一年
二月二十六日(火)

原島マネジメント研究所代表

原島敏郎氏 (七期生)

「仕事とは何か?」金さえ稼げればそれでいいのか? いや、そうではない。人々に必要とされたり、やっていておもしろいからこそ、我々は人生の大半を仕事にささげることが出来るのだ。



この世には約三万種の職業がある。一人一人顔が違うように適している職業も違う。アメリカの心理学者ジョン・ホランドの理論に基づきつくられた「ハピキヤリキット」。これを使って、職業の適性を探った。生徒たちは嬉々として取り組んでいた。己を知り仕事を知る一助となったのではないか。

(辰巳)

高一対象

平成三十年
六月十六日(土)

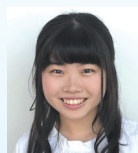


六月十六日(土)、高校一年生を対象とする進路講演会が開かれました。

卒業したばかりの三名が、自身の経験をふまえ、後輩たちに具体的なアドバイスをくれました。最初に滋賀医科大学医学部の菅原さんが、進路は自分のやりたいことを第一に考えて決めること、次に京都大学文学部の田中さんが、毎日の復習を大切にする家庭学習の方法、最後に大阪大学工学部の東くんが、二十分テストの大切さと大学生活についてなど、それぞれ熱く語ってくれました。

質疑応答のコーナーでは、和やかな雰囲気の中、三名は高一生の率直な質問に真摯に答えてくれました。講演終了後も先輩を囲むたくさんの高一生の姿がありました。今後の生活に活かされることを願っています。ありがとうございました。(池田)

講演者の言葉



滋賀医科大学・医一回生
菅原 悠さん
(51期)

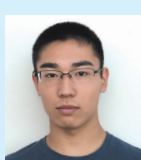
高校三年間はあつという間に過ぎていきますが、人生の中でとても重要な期間です。将

来の自分のために選択をし全力で勉強ができるのは今しかないと思うので、努力をするのはとても大切なことです。それと同時に、高校生活において友人と過ごす時間も本当に大切なものだと思います。私は受験の時、友人がいたからこそ辛さを乗り越えられたことが多々ありました。今しかできないことを精一杯して下さい。



京都大・文一回生
田中 愛佑美さん
(51期)

高校一年生の皆さんは徐々に大学受験を身近に感じるようになってくるとは言え、自らの進路について明確に決めている人は少ないと思います。自分のやりたいことを見つけ、その目標に向かって努力し続けるのは容易なことではありません。それでも、試験を一つ乗り越えることで必ず人は成長します。同じ目標に向かって努力する友と切磋琢磨しながら、悔いのない高校生活を送ってください。



大阪大・工一回生
東 知樹さん
(51期)

高校一年生の皆さんは、これから受験という大きな試験を経験することになります。それは辛く苦しいものだと思いますが、その試験を乗り越えた時、必ず皆さんは大きく成長することができると信じています。それを乗り越えるためには、自分で確かな目標を持つことが必要だと思います。受験を乗り越えた先での大学生活で自分は何をしたいのか、どうなりたいのか、今、自分に向き合って考えてみてください。

中二校外学習



今年度は、十一月五日(月)に実施しました。テーマは「日本の伝統芸能に触れる」です。午前中は、天満

天神繁盛亭での落語鑑賞です。

本校十九期生の落語家、林家染雀のご尽力により、本校中二生と参加希望の保護者若干名で貸し切りで行われました。最初は染雀さんの「落語入門」「お囃子解説」から始まり、「生徒の落語体験」最後は、染雀さんと桂あやめさんの本格的な落語で大いに盛り上がりました。

難波の宮跡での昼食をはさみ、午後は、大阪能楽堂へ移動し、狂言を鑑賞しました。これは、本校の美術科講師で狂言師でもある安東睦朗先生のお力添えで実現しました。舞台がホールと同じような音響効果があるという説明を聞きいたり、生徒は、能の歩き方を学び、面をつけた状態で舞台を歩いたり、貴重な体験ができました。その後、安藤先生が演じる「神鳴」と「時声」を観て、実際の狂言を楽しみました。

今日国際化が進む中、日本の伝統芸能に触れる意義は非常に大きいと感じました。生徒たちには充実した一日でした。(小野)

